

地図帳で旅する歴史の舞台

八街市立実住小学校 佐伯 和博

1 はじめに

6年生の歴史学習において地図帳を活用し、さまざまな歴史の舞台や現代に残る史跡、古戦場などをより深く、身近に感じ、学ぶことはできないだろうか。例えば、源頼朝が挙兵後、戦いに敗れ、千葉県に逃れたこと。富士川・一ノ谷・屋島・壇ノ浦と続く戦いを地図帳から探し、指でなぞったり、白地図にまとめたりすることで、平氏と源氏の戦いの流れが視覚的にも読み取れ、千葉県には、頼朝が通った地名が残されていることなどを補足すると、自分たちの地域とのかかわりや歴史の舞台がどのように動いているかを感じられる。このような歴史学習における地図帳活用をわたしなりに考えてみた。



図1 『小学校6年社会科学習用白地図』 p.4*

2 正倉院の宝物はどこから

東大寺正倉院にある宝物はどこから来たのか。子どもたちに疑問をぶつけてみる。すると、「日本にあるから日本人がつくったものではないか」「米づくりや仏教が伝わってきたように、大陸からきたのではないかとさま

※印旛地区教育研究会社会科研究部編(株)帝国書院印刷

ざまな意見が返ってくる。そこで、宝物の中から琵琶の絵に注目させる。子どもたちは「ゾウが描いてある」と気づいた。「ゾウはどこ動物かな」と疑問を投げかけると「アフリカ」「インド」などの意見が聞かれ、この琵琶が日本のものではないのではという考えが生まれた。そして、この琵琶がインドから伝わってきたものであることを子どもたちに伝え、『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』(以下、地図帳) p.55~56①アジアを開くとインドの位置や多くの情報を目にするようになる。



図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.55~56

地図帳からは、まず約6000kmも離れたところから来たことや、ヒマラヤ山脈などの多くの山脈や砂漠、そして大河や広大なユーラシア大陸などを地図帳で確認すると、この宝物を日本に運ぶことの大変さを感じ取れる。

他に気づいたことがないか探してみると「シルクロード」「文化や物が日本、ローマに伝わった道」が地図帳に記載されていることがわかる。道をたどると日本までつながっており、当時の世界と日本の結びつきをこのページから学び取れたのではないだろうか。

すると、子どもたちの中から他にはどのようなものが伝わってきたのだろうかという疑問がさらに生まれ、調べ学習に結びついた。ガラスのコップや水差しは、西アジアから。すごろくや茄子、レタス、カブなどの野菜類もシルクロードを通じてもたらされたものと

わかると、さらに探究心が高まった。

3 鎖国のなかでの交流

鎖国の中で、どのような交流があったのか。まず、江戸時代のように「江戸図屏風」から読み解く。すると屏風の中に、朝鮮通信使が描かれていることがわかる。

子どもたちに、この人たちについて問いかけてみると、「外国の人だ」「どこかの王様じゃないか」などの考えが出された。これは朝鮮通信使ということ伝え、朝鮮についてどのようなことを知っているのかを聞いてみた。すると、すぐに豊臣秀吉が攻め込んだところであるという声がかえってきた。文禄、慶長の役と2度も朝鮮を攻めているのに、なぜ交流ができたのだろうという疑問もわき上がる。

そこで、調べ学習に取り組み、朝鮮通信使は豊臣秀吉の侵略によって崩れていた両国関係の修復を目的としていたこと、朝鮮との貿易は対馬藩を通じて行われたこと、また、将軍がかわるごとに派遣され、新将軍への祝賀と友好を目的とし、毎回数百人も使節団が計12回に渡って行き来したことがわかった。

調べたことをもとに、対馬を地図帳p.20②対馬で確かめてみると朝鮮通信使と記載されていることに気づく。

さらに、日本の他の地域にも朝鮮通信使の記載がないか調べ



図4 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.23~24

てみると、地図帳p.23~24①中国地方に3か所記載されているのを見つけた。瀬戸内海沿いに記載されているため、船でここまで来たのではないかという考えが導き出された。その後は、淀川から京都へ、さらに中山道、東海道を通り江戸までの道筋をたどって、約2000kmもの旅を自分の目でつなげることができた。

参勤交代の学習で、この時代の数百人単位の移動がどれだけの苦労があったのかを学んでいる。莫大な費用がかかり、医療もそんなに発達していない時代である。また、通信使の船が日本海を越えてくることは、非常に危険な旅であったことなど地図を通してそのルートを知り、感じることもできた。また、現在でも、祭りや踊り、人形や地名など各地に残る史跡などがあることも補足した。

同様に、琉球使節にもふれ、沖縄からの海路、陸路もたどったが、琉球使節については、朝鮮通信使のような待遇ではなかったことを確認し、授業を終えた。

4 終わりに

地図帳から地勢を確認し、当時の人々の苦勞を感じながら授業を進めることができた。地図帳には史跡などさまざまな情報も記載されており、歴史学習を行う上で調べるだけでなく、考えるツールとして欠かせないものである。

*掲載した地図は現在4・5年生が使用している版で示しています。



図3 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.20